

橋渡し研究プログラム（大学発医療系スタートアップ支援プログラム）

医療系スタートアップ支援拠点

採択課題名：総合知を新医療へ、九州・沖縄・西日本を挙げてアジアへ繋がる医療系スタートアップエコシステムの構築

代表機関名：国立大学法人九州大学

補助事業代表者名：生命科学革新実現化拠点・拠点長・赤司 浩一

分担機関名：国立大学法人長崎大学

採択拠点



主な連携・協力機関：筑波大学、国立国際医療研究センター、WAT-NeW 連携大学[†]アカデミア全26機関、VC等23社、自治体等4団体

全体概要

[†] <https://wat-new.org/working>

九州・沖縄・西日本を挙げてアジアへ繋がる医療系スタートアップエコシステムQUICK (Quantum University Innovation Cycle from Kyushu)を立ち上げ、世界に向けた多重圏の医療系スタートアップ事業を強力に推し進める。九州大学拠点は、これまで西日本の主要な26大学が加盟するWest Japan Academia Translational Research Network (WAT-NeW)を構築してシーズを発掘し、病院 ARO次世代医療センターと一体となって実用化を幅広く支援してきた。本事業では、九州大学アジア・オセアニア教育研究機構(QAOS)および国際医療部等を通じたアジアの医療系アカデミアとの連携を深化し、出口の臨床試験を含む海外展開を強化する。

加えて、国を越えた規模で解決すべき社会課題として感染症に注目し、長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科、長崎大学病院を分担機関、国立国際医療研究センターを協力機関として感染症シーズ開発についても充実させる。

実用化に向けたビジネス面の支援では、JST事業PARKSで構築した400人以上の事業化推進人材/CxO人材プールによる人材供給と、強力なベンチャーキャピタルネットワークを活用して、強固なスタートアップ支援を実現する。

九州大学ロバートファンアントレプレナーシップセンター(QREC)を中心に、筑波大学Research Studioと相互協力し、Translational Science & Medicine Training Program (TSMTP)などの医療系スタートアップに必要な実践的教育を拠点内外に提供する。

